

令和4年6月22日(水)に開催した令和4年度第1回公立大学法人静岡文化芸術大学経営審議会の結果は次のとおりである。

1 議案

(1) 令和3事業年度及び第2期中期目標期間に係る業務の実績に関する報告書(案)について

ア 趣旨

事務局から、令和3事業年度及び第2期中期目標期間に係る業務の実績の概要について説明があった。続いて、教育研究に関する事項について森副学長より、法人運営等に関する事項について松下理事より説明があった。

イ 主な意見

・設備投資に関して、5年や10年の計画がある中で今年はこれだけの実績という評価の仕方なのか。

→単年度からだけでなく長期的な視点も合わせ、両面から見ることの重要性を意識している。単年度で経費が浮いた、浮かないと一喜一憂するのではなく、長期に見て本当にそれが安くなっているのか、効率的になっているのか等、分析しながら進めて参りたい。

・「文明観光学」とは何なのか伺いたい。

→「文明観光学」は学問領域としては世界初の看板である。観光学は最近流行であるが、どのくらい儲かるかに関心が置かれ、訪れる人も受け入れる人もお互いに高まるという形の観光のあり方が大きな課題である。特に遠州一帯にどのような価値を持つ場所があるのかを再考し、それにふさわしい交通機関の在り方などを総合的に考える。

ウ 審議結果

審議を踏まえ、承認され、役員会に付託された。

(2) 令和3年度 事業報告及び決算報告(財務諸表等)について

ア 趣旨

事務局から、令和3年度 事業報告及び決算報告が説明と併せて、当該事業報告及び決算報告に関して、独立監査人と監事のそれぞれから監査報告書が提出されたことが報告された。

イ 主な意見

・コロナ禍や戦争の影響で半導体の仕入れ値が上がったり、納入が遅れるなどの社会全体に及ぶ影響が出ているが、本学で影響があった項目があれば教えて頂きたい。
→電気料金が大きくなっていることを懸念している。コロナ禍により支出が抑えられたところと増えたところを整理しなければならない。電気代については対処できるところは早急に対処したい。

ウ 審議結果

審議を踏まえ、承認され、役員会に付託された。

2 報告事項

(1) 令和4～7年度 公立大学法人静岡文化芸術大学理事の分掌について

横山理事長より、令和4から7年度までの法人理事の分掌について、説明があった。松下育蔵理事は「法人経営」、松井孝典理事は「研究未来」、石田亨理事は「教育未来」をそれぞれの分掌とする。

以上